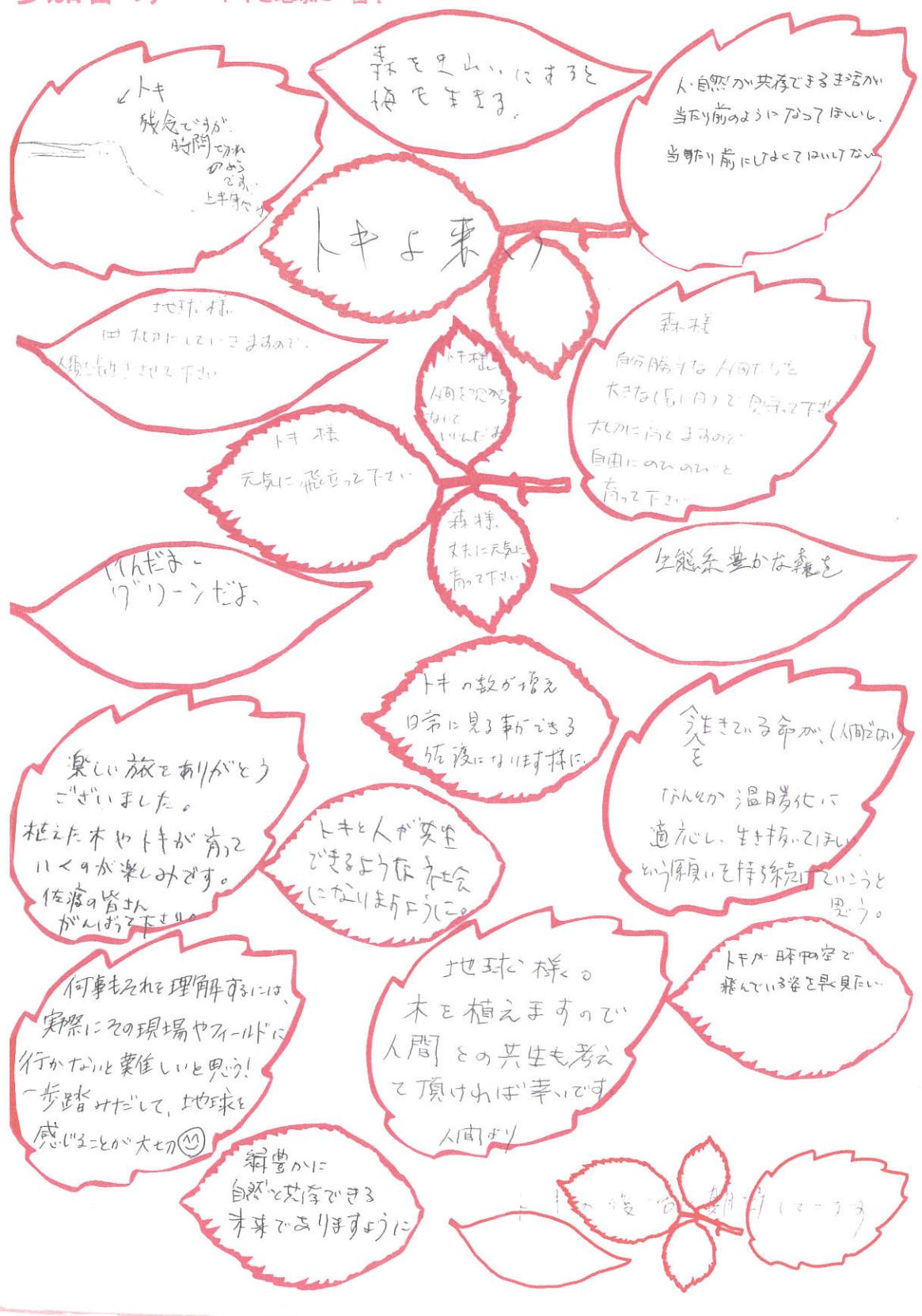


参加者の声 トキと地球に一言！



トキの羽ばたく森づくり

Tour Report

2008年10月25日～26日



企画・運営:NPO法人環境リレーションズ研究所

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-14 ウキガイビル5階 TEL:03.5283.8143

Present Tree for Tokiは、日本郵便の平成20年度カーボンオフセット年賀寄附金「地球温暖化防止活動助成」を受けて実施しています。

 Present Tree® for Toki
このリーフレットは、日本郵便の平成20年度カーボンオフセット年賀寄附金「地球温暖化防止活動助成」を受けて制作しました。

はじめに

このレポートは、Present Tree for Toki 第1回植林ツアーをまとめたものです。「Present Tree」は2005年1月に、環境問題のために何かしたいが、何から取り組んでいいか分からないという多くの声が集まり始まりました。「贈り物に樹を植えよう」をコンセプトに、森林再生という環境貢献を“植林証明書”にかえて、大切な人にプレゼントするものです。2009年1月時点で国内をはじめとした森林再生が必要なエリア6箇所で活動しています。今までに約4万人の国民の参加により約2万本の植栽を終了し、この先もこれらの森林が健全に育つよう、各エリアの専門家と一緒に保育管理に取り組んでいるところです。

NPO環境リレーションズ研究所 理事長 鈴木敦子

Present Tree for Toki ~トキの羽ばたく森づくり~ 概要



Present Tree for Toki のあゆみ(抜粋)

2007年10月 新潟県との森づくりについての調整開始

2008年4月 植栽地現地視察



2008年7月 Present Tree for Toki 募集開始

2008年9月 トキの羽ばたく森づくり協定書調印式



2008年10月 Present Tree for Toki 第1回植樹イベント & 植林体験ツアー開催



Present Tree for Tokiとは?

トキが将来的に飛来するであろう佐渡島内のエリアで、トキの寝床や営巣の為の森づくりを目的として行う森林再生プロジェクトです。環境省では1999年にトキ野生復帰環境再生ビジョンで、トキの野生復帰の目標を取りまとめ、“およそ10年後(2015年頃)に小佐渡東部に60羽のトキを定着させる”と掲げています。

トキってどんな鳥?

トキは日本のシンボルのような鳥という意味から、学名はNipponia Nippon(ニッポンニアニッポン)とつけられています。過去にはロシア、朝鮮半島、中国に生息していました。日本国内でも江戸時代頃までは函館から沖縄までほぼ全国に生息していたといわれています。その後、乱獲と生息環境の悪化により東南アジア一帯で減少が進み、現在では中国を除き絶滅してしまいました。



佐渡の自然

佐渡の林野面積は、約63,000ヘクタールで佐渡島総面積の約73%を占めています。多種多様な植物が分布しており、スギ・アカマツ・アベビ等の天然林や、カヤ・ヤブツバキ・アカガシ等の大木も残っており、寒地・暖地両系の植物が多く、植物学上でも「日本の縮図」とまでいわれる自然の豊かな地域です。

なぜ森林再生が必要なのか

トキの営巣には横枝の大きく張ったマツが適当とされていますが、近年このようなマツがマツクイムシの被害を受けて大きく減少しています。このマツクイムシ被害を受けた森林が自然の力だけで森林に戻るためには、非常に長い年月がかかりてしまいます。また、平成20年秋にトキは小佐渡東部に野生復帰に向けて試験放鳥されました。それに伴い今後のトキの生息域を確保していくべく早急な営巣木等の整備が望まれています。

トキの羽ばたく森づくり 第一回植樹イベント

10月25日(土)、新潟県佐渡市片野尾区にて「Present Tree for Toki」の第1回目の植樹イベントを行いました。当日は天候も良く、全国からのツアー参加者と地元参加者あわせて総勢約80名が集まり、怪我もなく無事に終りました。地元佐渡市立前浜小学校の子供たちの「トキさん待ってね～」という可愛らしくも頼もしいスタート宣言の後、地元の方々が佐渡島で取れた竹で作ってくれたスコップを使って、ニイガタセンネンマツ300本とヤマザクラ50本を植えました。

*この模様はプレゼントツリーWeb: (<http://www.presenttree.jp/tokireport/index.html>) で動画配信しています。

植樹イベント開催概要

■日時：平成20年10月25日(土)午後1時～3時

■植林場所：

森林基幹道「小佐渡2号線」沿いのエリア。トキ放鳥後、餌場となりうる休耕田を利用したピオトープ作りなど、地元でもトキの保護に積極的に取り組んでいるエリア。

■植栽樹種：ニイガタセンネンマツ 300本
ヤマザクラ 50本



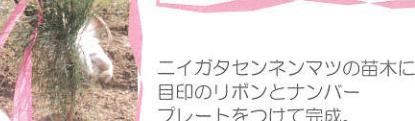
市立前浜小学校の児童と一緒に開会宣言！



温かい飲み物でちょっぴり休憩。



無事植林終了！！みんなで記念撮影！



ニイガタセンネンマツの苗木に目印のリボンとナンバープレートをつけて完成。



きれいに苗木が植わりました。

「トキの羽ばたく森づくり」イベント実行委員会

委員長 小林 正幸 (新潟県佐渡地域振興局農林水産振興部副部長)
副委員長 鈴木 敦子 (NPO法人環境リレーションズ研究所理事長)
副委員長 小田 誠 (佐渡市片野尾集落区長)
委員 古藤 勇 (瓜生屋生産森林組合長)
委員 安田 俊雄 (新穂森林組合長)
委員 中山 萬壽夫 (両津東部森林組合長)

委員 若林 光伸 (社にいがた緑の百年物語緑化推進委員会地域推進員)
委員 服部 幸一 (佐渡市産業観光部農林水産課長)
委員 渡辺 常男 (新潟県佐渡地域振興局農林水産振興部林業振興課長)
委員 渡邊 洋一 (新潟県佐渡地域振興局農林水産振興部課長代理)
委員 山田 精二 (新潟県農林水産部治山課副参事(緑化係長))
委員 近藤 裕樹 (新潟県農林水産部治山課 緑化係主任)

<1日目: 10/25 (土)>

- ① 東京駅 7:48出発
- 新潟駅 9:54
- ② 新潟港 11:10
- ③ 両津港 12:10…途中各自昼食
- ④ 片野尾地区 13:10~15:30
 - | 第一回
 - | トキの羽ばたく森づくり植樹イベント
- ⑤ トキ交流会館 16:30
 - | 金子獣医による講演会
 - | トキ保全活動全般の資料見学
- ⑥ 宿泊地 19:00到着



<2日目: 10/26 (日)>

- 宿泊地 9:00出発
- ⑦ 史跡佐渡金山見学 9:15~10:00
 - | (大佐渡スカイラインを通り移動)
- ⑧ トキの森公園見学 11:30~12:00
- ⑨ トキ野生復帰ステーション見学 12:15~12:45
 - | ...昼食 13:00~13:50
- 両津港 14:30
- 新潟港 15:30
- ⑩ 新潟駅 16:43
- 東京駅 19:00到着

佐渡トキめきレポート ～植林からトキと人間の共生を考える～

渡邊 恵実（熊本県立大学環境共生学部）

普段は、有明海に生息する二枚貝や底生生物の生態について学んでいますが、個人的に今回のトキなどを含めた野生生物の保全にも大きな関心を持っています。このPresent Treeのトキ見学・植林体験ツアーを知ったのは偶然でしたが、「何事にも挑戦してみよう!」という気持ちから参加しました。

市民をあげて応援

2008年9月25日に10羽のトキが野生復帰のため放鳥されました。この放鳥にあたっては、佐渡市民の中でも意見が分かれていたそうで、佐渡市民みんなでトキの野生復帰を目指し、応援している様子でした。また、佐渡の方々にとってトキは非常に身近な鳥であり、自分の田畑を冬場も灌水してトキのえさ場として提供されている人も居られることが判りました。

トキの営巣林拡大のための植林

今回はニイガタセンネンマツとヤマザクラを、ツアー参加者・小学生・その土地の関係者などをはじめとした多くの方々と協力して植林しました。トキは、樹上の丈夫な部分に小枝などで巣を作り繁殖するとされています。捕まえ

られたり、トキが営巣できるような場所やエサ物理的にも金銭的にも無理です。そこで、自らが少なくなったりて、野生のトキは全滅した。然環境と人間が共生していくためには、人間も一度居なくなってしまっす。かつて、トキは人里に近い場所にある水田でジョウやカエルを食べて生息し、人間とし森を作り出すことは難しいですが、何十年後か何百年後にトキの営巣場所になっていることを願っています。

最後に

今回、トキの繁殖や日常訓練に携わっている方々トキを見る自然環境と人間活動の共生から実際に話を聞き質問する機会や、トキの施設見学をすることでき充実したツアー環境が変えられたことや、人間による捕獲でした。トキ見学と植林体験のどちらが欠けて絶滅に追いやりられてしましました。野生のトキは全滅してしまい、中国から譲り受けたトキが日本で繁殖しています。トキの保全に関しては、専用の繁殖施設を造つたり膨大の費用をかけて行われていますが、他にも絶滅の危機に曝されている生き物は日本中に多数存在します。その絶滅の危機にさらされている生き物すべてに対してトキのような扱いをすることは

“Present Tree トキ見学・植林体験ツアー”

参加レポート ~企業人として~

柳澤 亜樹（株式会社アスク）



今回、いち企業人としてこのツアーに参加させていただきました。環境のために何かをしたいけれども何をしたらよいか、わからない。お客様からそんな声をよく聞く中で、こういう事業を企業レベルで広めていくことも、ひとつの社会貢献になるのではないかと強く感じました。

「循環型」なイベントと実感

今回のツアーに参加させていただき、植林というは、地域に住む方々の協力があってこそ成り立つということが分かりました。またこのツアーは「トキのために植える」という一方通行的な行為だけではなく、地元の方々とのコミュニケーション、地域の活性化、また地球環境のために何かアクションを起こしたい方々への機会創出、そしてCO2削減…現代社会において不足している、さまざまな要素を含んだ、ある意味「循環型」なイベントなんだなあ、と感じました。

ユーモアたっぷり金子獣医師のはなし「ハチドリのひとつずく」という物語の「私にできること」。1本の植林も、私たちにとってできるこのひとつなのだということを実感できました。

このプロジェクトが目指すもの

この植林の目標ところは、将来、野生のトキが巣を作ってくれるような森を作る、という壮大なものです。今回植えた木が大きくなる頃(20年後くらい?)には、今年から始まった放鳥により自然へと放されたトキたちが自らの力で繁殖していき、昔では当たり前だった、空を駆け巡るトキの群れが日常的に見られるようになります、そしてこの森でくつろぐ姿も見ることができるようになるかもしれませんね。

ユーモアたっぷり金子獣医師のはなし「ハチドリのひとつずく」という物語の「私にできること」。1本の植林も、私たちにとってできるこのひとつなのだということを実感できました。

キンの美しさに感動

2日目は、佐渡金山を見学したあと、トキの森へ。トキ資料展示館にはトキに関する資料と共に国産最後のトキ「キン」の剥製もあり、あまりのリアルさと美しさに感動。そしてよいよトキ保護センター内の飼育ケージで、本物のトキを見ることができました。

最後に

いまさら、社会全体が自然とうまく共存している頃の生活様式に戻るというのは無理な話ですから、私たちは現代のやり方で、自然と共生する仕組みを考え実践していかなくてはなりません。「一発逆転」なんて事はあり得ないので、私たち世代が、私たちにしかできないことを実践し、次の世代へパンチッタすることも重要な事だということを実感しました。

点から線への環境活動～NPOの視点から～

菊地 洋平（NPO法人GoodDay）

僕が所属しているNPOでは、「遊びながらエコ」をモットーにツアー・スポーツ・音楽イベントなどに、ごみ拾いや間伐などのちょっとしたエコ活動をあわせて企画しています。“もっと楽しく”“もっと気軽に”植林活動を通じたエコアクションを提案しているプレゼントツリーのスキームは、人々に行動するきっかけを与えるという点で同じ目的を持った活動だと言えます。今後も、活動の結果が将来、大きな意味を持つように所属するNPOでもフォローアップしていきます。

明確な目的があるプロジェクト

今回のプレゼントツリー for Toki このプロジェクトの素晴らしいしさは、将来のトキの寝床や営巣のための森づくりという明確な目的があるところだと思います。ツアーでは、植林活動の他にトキ交流会館やトキの森公園などトキの保全について学ぶ機会をいただきました。

簡単に植林のやり方を説明すると、①穴の中に肥料と土を入れて混ぜる ②根が肥料に直接触れないようにしながら注意しながら

一時間ちょっとで350本の植林を行いました。めのトキ野生復帰ステーションなど、多くの方大人数でわいわいしゃべりながらやると、楽しくがトキの復帰に係っていることに驚きました。早く出来ますね。全部植え終わった後に、近いおばあちゃんが、「2人3人でやったら3のように佐渡島で野生のトキが多く生活しているのに、大人数でやつたらあつといふ間に助かるわ。」とおっしゃっていたのが印象的でした。「植えに来てよかったな、自分

にも協力できることあるんだな」などと思いながら、聞きなれた言葉だけ『出来ることから』ということを実感しました。

様々な人の力で

トキに関する施設見学では、島民の方々のトキの復帰に対する想いや取り組み内容などを具体的に知ることが出来ました。島の方から寄せられたトキの目撃情報を取りまとめていたトキ交流会館、長年トキの保全活動に携わっていらっしゃる金子獣医による講演、トキに関する様々な資料が展示してあるトキの森公園、

最後に

今回のツアーを通じて、トキが生活していく森をつくるための植林活動、トキが餌をとったり水浴びをするためのビオトープづくり、人間の活動が自然に与える影響や生態系について学ぶ環境教育など、一つ一つの環境保全活動が、トキの保護を目的として繋がっていること、その成果が少しずつ見えてきていることを体感することが出来ました。これは普段頭では理解しているけれど、なかなか実感できる機会は少ないとと思うので、僕にとっては大きな収穫でした。

トキの羽ばたく森づくり メディア掲載

■ 新聞・専門誌掲載実績

- ・2008年10月8日 新潟日報
- ・2008年10月22日 林政ニュース
- ・2008年10月26日 読売新聞

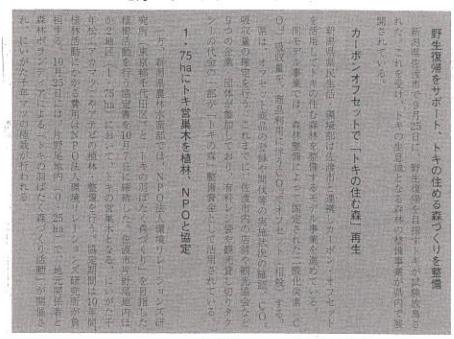
■ TV放映実績

- ・佐渡ケーブルテレビ
- ・2008年10月27日 新潟放送(BSN)



ユース 平成20年10月22日 平成6年6月9日第3種郵便物認定 第351号

地方のトピックニュース



ツアーモデルは 大学生のつくる環境系マガジン 「サステコ」にも掲載



サステコとは：
自指すのはずっとずっと笑顔が
続く社会。今だけでなく、未来も。
未来だけでなく今も、環境という切り口
から笑顔になれる行動を、提案する。
学生が作る学生向けの環境系マガジン。



中井裕未さん
(M学院大学2年)

Q. ツアーハ後気持ちや行動に
変化はありましたか?



このツアーに参加したことにより、以前よりもトキの存在が私の中で大きくなりました。東京に帰った後、行方不明であった2羽のトキが本州で確認されたことをネットで知り、大変嬉しく思いました。それと同時に、本州まで渡ったトキの努力に感動をうけました。佐渡の滞在中には残念ながら野生のトキを見ることはできませんでしたが、何十年後かには日常生活の中で野生のトキを目にすることができる日がくることを待ちにしています。その日がきた際には、再び佐渡の地へと足を運びたいと思っています。放鳥されたトキが現在無事に生きているのも、トキのことを思う人たちの温かい気持ちがトキのもとへと届いているからだと思います。私もその中に一人として、実際にトキにしてあげられることは何もないけれど、トキの無事を祈り続けることで、トキを見守っていきたいです。



田澤俊希さん
(T大学3年)

ツアー以降、新聞でトキの記事が目に留まることが多くなりました。特に佐渡島から海を渡り、本土新潟にまで行動範囲が広がっていた記事には、とても驚きました。弊誌サステコ第6号の表紙では、東京の空をトキが舞う絵が描かれています。このように、東京でも生物と共存できる、生物多様性が守られた未来に貢献していくたいと思います。



下地聰子さん
(J大学3年)

絶滅寸前の動物がどのように野生に復帰しているのかが、とてもよくわかりました。希少動物の保護に邁進する環境省の方の仕事を直に見られたのも、貴重な体験でした。自分の将来と環境問題をどう関連付けるか、より一層考えさせられるきっかけになるツアーでした。

地元のテレビでも紹介されました！



BSN新潟放送 イブニング王国NEWS 2008年10月27日放送

プレゼントツリーのWEBサイトでもツアーモデルの様子をご覧いただけます。

(URL : <http://www.presenttree.jp/toki-report/>)



プレゼントツリー特設WEBページで動画配信中です！

おまけ・プレゼントツリーについて

■ PresentTree の概要 ■

始まり：2005年1月
植栽地：7箇所

北海道・雨竜郡
新潟県・佐渡市
山梨県・南八ヶ岳
山梨県・甲府市
熊本県・球磨村
宮崎県・高原町(2009年3月スタート)
インドネシア・カリマンタン島

植栽本数：18,411本
参加人数：38,202人

■ PresentTree のあゆみ ■

- 2005年1月 PT for オランウータン始動
- 2006年10月 PT in 北海道始動
- 2007年4月 PT in 南八ヶ岳始動
- 2007年4月 PT in 南八ヶ岳
ヤマガラの森植樹イベント開催
- 2007年5月 PT Live開催
- 2007年11月 PT in 南九州
球磨村植林体験ツアー
- 2008年7月 PT for 四季の森始動
- 2008年7月 PT for トキ始動
- 2008年11月 PT for トキ
トキの羽ばたく森づくり第一回植樹イベント
- 2008年12月 平成20年度地球温暖化防止活動
環境大臣賞対策実践部門受賞

P T in 南九州

●

樹を切った後、植栽が行われないまま放棄されている裸地を、その本来の姿に戻し、自然と人が共生する空間を取り戻す、未来のための活動です。

●

(熊本県球磨村／宮崎県高原町)

P T for 四季の森

●

豊かな自然やおいしい水の源として人々にも恵みをもたらす森が、近年、木材価格の低下による林业の停滞や山村地域の過疎化、高齢化により手入れ不足となり、失われつつあります。野生生物にとっても貴重な森の再生を行い、生態系を守り、人と自然の共存できる未来を作ります。

●

(山梨県甲府市)

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●